

いよいよ、明後日から冬休みです。2011年も大詰めを迎え、一年を振り返った話題がでる事が多いと思いますが、今年は、3月に起きた「東日本大震災の年」として、私たちの記憶に残る事は間違いなく、あわせて9月に紀伊半島大水害があった事も忘れられない年となるでしょう。

しかしながら、当時の凄まじい津波と、その津波に流された被災地域の映像を見た衝撃は、ずいぶん薄らいできていると思います。震災や水害があった事実は忘れことはなくても、自然の力の怖さや地球の営みのなかでは、人間は全く無力である事などが、時とともに忘れられていくのは人類の宿命なのかも知れません。

自然の猛威の前では全く無力な人間ですが、現代の日本人の多くは70年～80年も生きる事ができます。そんなに長く、しかも一度しかない人生ですから、健康で快適に過ごせる事に超したことはありません。そのためには、当然タバコに手に出してはいけません。この事は、ほとんどの皆さんはわかっています、一生タバコを吸わない、とってくれています。

でも、先週紹介したとおり、現実には、タバコを吸っている大人はいっぱい居ます。という事は、自分は吸わなくても、他人の副流煙を吸わされてしまう確率が高くなります。せつかく、健康で快適な人生を送ろうと自分では気をつけていても、そんな状況が多発するのは、悔しいし困りますよね。

ところで、日常生活するうえで、タバコ以外にも周りの人の行動や言動が「イヤだな」とか「困るな」などと、感じることもあるでしょう。そんな状況の多くは、その本人が、他人が「イヤだな」「困ってるな」と感じていると、気づいていない事が原因で起こっています。

話は変わりますが、車いすの方には、階段が「困ります」。耳の不自由な方には、字幕のないテレビドラマは「困ります」。目の不自由な方には、点字ブロックがなければ「困ります」。そんな方々が困っている事に気づいているからこそ、スロープや、字幕や、点字ブロックがあるわけです。そして、そんな社会を“バリアフリーな社会”と呼ぶのを知っていますか。生活する上での支障(バリア)を取り除いた(フリー)社会という意味です。

では、タバコを吸う事で周りの人が「困っている」状況に気づいたとしたら、どうしていきべきでしょうか。バリアフリーな社会ができたように、タバコの煙を取り除く社会を作っていかなければならないと思いませんか。今、それを気づき始めた日本のあちこちで“スモークフリーな社会”を目指す動きが出てきています。

君たちも、とりあえずタバコを吸い始めないことで、スモークフリーな社会に貢献できるはずですよ。